

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200594		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ福室	ユニット名:さくら	
所在地	宮城県仙台市宮城野区福室7-6-17		
自己評価作成日	令和7年12月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 仙台MTビルEAST2階		
訪問調査日	令和 7 年 12 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地としては、多賀城にも近く、近くには小学校や中学校、公園など、存在しているなかで、高齢者の複合体の施設になっています。毎月の行事や季節のイベントなどを行い、入居者、ご家族が安心して生活できるよう職員で支援しています。居室内にはトイレや洗面台も供えられており、個別的な支援が行えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR仙石線陸前高砂駅から1.4kmの立地にあり、敷地内に同法人の介護付き有料老人ホームや障がい者グループホーム等がある。開所2年目を迎え、町内会に加入し地域に根ざした運営に取り組んでいる。個々の思いを尊重し、束縛のないゆつくりと過ごせる生活を大切にした支援を行っている。介護福祉士等の資格を持つスキルの高い職員が多く在籍し、適切なケアにより認知症の進行を緩やかにし、安心して暮らせる環境づくりを行っている。訪問診療や訪問歯科、訪問看護の利用で医療面での安心に繋がっている。家族の精神的サポートにも努め、家族の体調を気遣う声掛けに感謝の声が寄せられている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状 態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援 をする努力をしている。 (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安な く過ごせている。 (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ライブラリ福室

)「ユニット名 さくら

」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットにてユニット目標を設定し、各職員が意識しながら普段に支援に取り組んでいる	法人やユニットの行動指針と目標を事務室に掲示し、実践に繋げている。個々のペースに合わせ「その人らしい生活」や「穏やかに過ごせる場」を提供できるように努めている。年3回の面談で振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	目の前に公園があり、子供たちの遊ぶ姿や登下校する姿など、また、定期的に実施している公園の清掃などをみて地域の中にある施設という事を意識できている	高砂老人福祉センターと意見交換し、サークル活動の発表の場をホームで提供する事になった。隣接する老人ホームで開催されるクリスマス演奏会を見学予定である。町内会と防災に関する役割について話し合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホープのいう存在を地域の方に発信できるよう取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内での意見を事業所運営に活かし、サービスの質の向上に努めている	地域包括職員や民生委員などがメンバーになっている。家族全員に開催案内を送り意見を聞いている。会議で町内会行事や包括主催の活動の情報を得ている。事故防止対策などの質問があり、その都度答えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や保護課職員と連携し、より良いサービスの実施が行えるよう取り組んでいる	生活保護の方の住所や銀行口座変更の相談などで連絡を取り合っている。地域包括から、日常生活で困っている方の情報があり入居に繋がった。地域の福祉避難所として連携を図っている。研修案内が届いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が定期的に身体拘束にならないよう日々のケアにカンファレンス等行い支援を行っている	法人独自の11項目のチェックリストで振り返りを行っている。ドラックロックに気を付け、医師と相談し、精神安定剤の服薬を減らす取組みを行っている。落ち着いて暮らせる工夫を職員で話し合い、身体拘束のないケアの実践に繋げている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待につながらないように職員が定期的に研修を実施し支援を行っている	職員同士の気づきを大切にし、口調などは注意し合っている。1人で抱え込まない環境作りを心掛けている。スポットワーカーの活用が外部からの目の役割に繋がっている。法人のカウンセリングが利用可能である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は地域包括支援センター職員や介護保険課と連携し権利擁護に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は十分に説明し、同意をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議等での意見を参考により良いサービス提供が行えるよう取り組んでいる	毎月の請求書や便り等は、法人で活用しているアプリで送っている。使い方などのフォローを丁寧に行っている。食べ物の差し入れや面会方法の問い合わせがあり、改めてお知らせなどで周知し、安心に繋げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談する機会を設け、意見を反映させている。また、会社内でのアプリを活用し意見の述べやすい環境を整えている	満足度調査を行い働き易い環境作りに活用している。個々の希望に応じた勤務形態を可能にしている。購入品は迅速に対応し、職員の不便を解消している。管理者は話を良く聞き、意見が出やすい環境を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談する機会を設け、日々職員状況を把握するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法定研修の取り組みや資格取得支援制度を活用している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に会社内での会議やリーダー間交流会の開催により意見交換の場を設けている	薬剤師に、飲み合わせや粉砕など服薬しやすい形状の相談を行っている。福祉用具業者や設備業者から助言を貰い、安全に生活出来る場の提供に役立てている。地域包括主催の地域ケア会議に参加予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が困っている事を聞き、入居後においても安心して生活できるよう支援を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が困っている事を聞き、入居後においても安心して生活できるよう支援を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が困っていていって手助けが必要なのか？ また、今後どのような生活を望んでいるのか聞く機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を一方向的に支援するのではなく、自分自身の役割を継続的に提供できるよう支援している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族においても入居後の様子について定期的に情報発信し理解できるよう支援している		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後に置いても定期的に家族が面会できる機会をもてるよう継続して支援している	連絡があればいつでも面会可能にしている。家族と馴染みの美容室に行ったり、買い物や散歩、墓参り等に出掛ける方もいる。居室を歩き来し、入居者同士でお喋りやパズルを楽しむ新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が行えるよう定期的に行事に取り組み楽しみを味わう機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においても、相談等のフォロー体制を整えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で意向が表現できる場合は傾聴し困難な場合には家族等から意向を聞く機会を設けている	個々のペースに合わせ、自己決定を尊重した日常を支援している。誰かのために働きたいという思いを大切に、出来る家事を担ってもらい自信に繋げている。頼み事は遠慮せず職員に話してほしいと伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方について聞き取りしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、本人が自由に生活できるよう支援に取り組んでいる		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、本人がより良い生活を送れるよう情報共有に努めている	個々のペースに合わせ、自己決定を尊重した日常を支援している。誰かのために働きたいという思いを大切に、出来る家事を担ってもらい自信に繋げている。頼み事は遠慮せず職員に話してほしいと伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を電子化することにより、誰もが分かりやすいサービス内容としている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にニーズの変化に即応できるよう、定期的カンファレンスを行い、ニーズやサービスの在り方について検討している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人福祉センターとの連絡を取り合い、地域に根差した施設運営を行えるよう検討している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医や、訪問歯科、専門医の受診など、多角的な診療が受けられるよう支援を行っている	全員が訪問診療を利用し、往診の対応もある。緊急時は主治医の指示を仰ぎ、救急車の要請時も、主治医が受入先病院の手配を行っている。眼科や入居前からの定期検査は、家族が付き添い通院している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との状態について共有し、必要であれば往診医との連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時加算の算定や情報共有、退院時の病院との連携など情報交換を密に実施し、医療面でのサポートをしている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に確認すると共に、その時の考えや意見を尊重し、入居者、家族が望む在り方の支援を行っている	入居時と重度化時に、医師説明の機会を持ち方針を決める。看取り期は眠りスキャンを活用し、急変に対応出来る体制を整えている。旅立ちの時間を家族と過ごせるように支援し、家族の不安や気持ちの整理などに寄り添い、相談に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの定期的な研修や実際の行動、連絡体制など都度確認を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練やBCP研修など実践しいざという時の対応について共有を行っている	敷地内の法人施設と合同で訓練を実施し、協力体制を確認している。反省会で、消防到着までの7分間にできる防火扉を活用した避難方法を検討した。事務室にヘルメットと救急持ち出し用品を備え付けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格の尊重した声かけ、呼称など行っている	出来る事を見極め、行き過ぎたケアにならないよう注意している。羞恥心に配慮した声掛けや入居者に馴染みのある言葉で分かりやすい説明を心掛けている。居室にトイレがあり、プライバシー確保に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生活を質を確保し、自己決定の尊重や本人の思いなど汲み取り支援をおこなっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間をどのように活用しながら支援が望ましいか都度検討しながら支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや衣類の交換など自身で行えない場合支援行っている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的に提供されるだけでなく生活の一部として下膳など利用者が行える部分を継続して支援している	配食業者を利用している。手作りの芋煮やパンバイキングを楽しむ機会もある。ホットプレートで作るフレンチトーストは食欲をそそる香りが広がり喜ばれた。食事の進み具合を互いに見守り、穏やかな食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の見直しや必要な水分量など観察している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な歯科健診など必要時において実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方以外、自身で排泄が行えるよう支援している	半数以上が自立している。座位が保てない方を除き、声掛けや誘導、介助によりトイレでの排泄を支援している。排便コントロールが安定し、失敗が減った方もいる。夜間のみポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の習慣など把握し、著しい便秘にならないよう留意している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の順番や時間など一人一人が安心して入浴できる環境を整えている	浴槽に入れない時は、ミスト浴や足湯で対応する事もある。好みのシャンプーや入浴剤を使用する方もいる。ヒートショック対策など安全に気を配っている。ゆっくり過ごせる時間を大切にし、職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息が取れる環境設定や居場所作りなど利用者一人ひとりに沿った生活ができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の元、適切に服薬できるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換を図り行事や楽しみ、季節感を味わう事を目的に生活の場の提供を行っている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を仰ぎながら、外出の楽しみが味わえるよう支援を行っている	多賀城のあやめ園や松島のかまぼこ工場見学にドライブで出掛けた。家族と買い物や散歩に出掛ける方もいる。日用品の購入は職員に頼むなど、外に出たがらない方が多い。1階の事務所へ行く時に誘い、歩く機会を作り気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、ご家族の協力の元支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などご家族や本人に聞き取りながら支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部などの空間を四季を感じたり談話するスペースで居心地が良い空間となる配慮している	フロアは広く、窓越しに公園が見え、子供の遊ぶ姿や町内会の清掃活動を眺める事が出来る。定期的に換気し、加湿器で乾燥対策を行っている。クリスマスツリーや季節の創作作品を飾っている。テレビを見たり、ソファで横になる等、個々に自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部にソファを設置しりゆったりするスペースの確保など行っている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は統一的なものではなく利用者が安心して生活できる場の提供を行っている	ベッドやクローゼット、洗面台、トイレ、テレビ等の備え付けが充実している。化粧品やマッサージ機、位牌等を持ち込んでいる方もいる。トイレに行きやすいベッドの位置にするなど、個々に過ごしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した建物内部として利用者が気持ちよく過ごせる環境作りを心がけている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200594		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	ライブラリ福室		ユニット名: もくれん
所在地	宮城県仙台市宮城野区福室7-6-17		
自己評価作成日	令和7年12月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 仙台MTビルEAST2階		
訪問調査日	令和 7 年 12 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地としては、多賀城にも近く、近くには小学校や中学校、公園など、存在しているなかで、高齢者の複合体の施設になっています。毎月の行事や季節のイベントなどを行い、入居者、ご家族が安心して生活できるよう職員で支援しています。居室内にはトイレや洗面台も供えられており、個別的な支援が行えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR仙石線陸前高砂駅から1.4kmの立地にあり、敷地内に同法人の介護付き有料老人ホームや障がい者グループホーム等がある。開所2年目を迎え、町内会に加入し地域に根ざした運営に取り組んでいる。個々の思いを尊重し、束縛のないゆつくりと過ごせる生活を大切にした支援を行っている。介護福祉士等の資格を持つスキルの高い職員が多く在籍し、適切なケアにより認知症の進行を緩やかにし、安心して暮らせる環境づくりを行っている。訪問診療や訪問歯科、訪問看護の利用で医療面での安心に繋がっている。家族の精神的サポートにも努め、家族の体調を気遣う声掛けに感謝の声が寄せられている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状 態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援 をする努力をしている。 (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安な く過ごせている。 (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ライブラリ福室

)「ユニット名 もくれん

」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットにてユニット目標を設定し、各職員が意識しながら普段に支援に取り組んでいる	法人やユニットの行動指針と目標を事務室に掲示し、実践に繋げている。個々のペースに合わせ「その人らしい生活」や「穏やかに過ごせる場」を提供できるように努めている。年3回の面談で振り返りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	目の前に公園があり、子供たちの遊ぶ姿や登下校する姿など、また、定期的に実施している公園の清掃などをみて地域の中にある施設という事を意識できている	高砂老人福祉センターと意見交換し、サークル活動の発表の場をホームで提供する事になった。隣接する老人ホームで開催されるクリスマス演奏会を見学予定である。町内会と防災に関する役割について話し合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホープのいう存在を地域の方に発信できるよう取り組んでいる			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内での意見を事業所運営に活かし、サービスの質の向上に努めている	地域包括職員や民生委員などがメンバーになっている。家族全員に開催案内を送り意見を聞いている。会議で町内会行事や包括主催の活動の情報を得ている。事故防止対策などの質問があり、その都度答えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や保護課職員と連携し、より良いサービスの実施が行えるよう取り組んでいる	生活保護の方の住所や銀行口座変更の相談などで連絡を取り合っている。地域包括から、日常生活で困っている方の情報があり入居に繋がった。地域の福祉避難所として連携を図っている。研修案内が届いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が定期的に身体拘束にならないよう日々のケアにカンファレンス等行い支援を行っている	法人独自の11項目のチェックリストで振り返りを行っている。ドラックロックに気を付け、医師と相談し、精神安定剤の服薬を減らす取り組みを行っている。落ち着いて暮らせる工夫を職員で話し合い、身体拘束のないケアの実践に繋げている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待につながらないように職員が定期的に研修を実施し支援を行っている	職員同士の気づきを大切にし、口調などは注意し合っている。1人で抱え込まない環境作りを心掛けている。スポットワーカーの活用が外部からの目の役割に繋がっている。法人のカウンセリングが利用可能である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時は地域包括支援センター職員や介護保険課と連携し権利擁護に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は十分に説明し、同意をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議等での意見を参考により良いサービス提供が行えるよう取り組んでいる	毎月の請求書や便り等は、法人で活用しているアプリで送っている。使い方などのフォローを丁寧に行っている。食べ物の差し入れや面会方法の問い合わせがあり、改めてお知らせなどで周知し、安心に繋げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談する機会を設け、意見を反映させている。また、会社内でのアプリを活用し意見の述べやすい環境を整えている	満足度調査を行い働き易い環境作りに活用している。個々の希望に応じた勤務形態を可能にしている。購入品は迅速に対応し、職員の不便を解消している。管理者は話を良く聞き、意見が出やすい環境を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談する機会を設け、日々職員状況を把握するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法定研修の取り組みや資格取得支援制度を活用している		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に会社内での会議やリーダー間交流会の開催により意見交換の場を設けている	薬剤師に、飲み合わせや粉砕など服薬しやすい形状の相談を行っている。福祉用具業者や設備業者から助言を貰い、安全に生活出来る場の提供に役立てている。地域包括主催の地域ケア会議に参加予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が困っている事を聞き、入居後においても安心して生活できるよう支援を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が困っている事を聞き、入居後においても安心して生活できるよう支援を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が困っていいて手助けが必要なのか？ また、今後どのような生活を望んでいるのか聞く機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を一方向的に支援するのではなく、自分自身の役割を継続的に提供できるよう支援している		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族においても入居後の様子について定期的に情報発信し理解できるよう支援している		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後に置いても定期的に家族が面会できる機会をもてるよう継続して支援している	連絡があればいつでも面会可能にしている。家族と馴染みの美容室に行ったり、買い物や散歩、墓参り等に出掛ける方もいる。居室を歩き来し、入居者同士でお喋りやパズルを楽しむ新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流が行えるよう定期的に行事に取り組み楽しみを味わう機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後においても、相談等のフォロー体制を整えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身で意向が表現できる場合は傾聴し困難な場合には家族等から意向を聞く機会を設けている	個々のペースに合わせ、自己決定を尊重した日常を支援している。誰かのために働きたいという思いを大切に、出来る家事を担ってもらい自信に繋げている。頼み事は遠慮せず職員に話してほしいと伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方について聞き取りしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、本人が自由に生活できるよう支援に取り組んでいる		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、本人がより良い生活を送れるよう情報共有に努めている	個々のペースに合わせ、自己決定を尊重した日常を支援している。誰かのために働きたいという思いを大切に、出来る家事を担ってもらい自信に繋げている。頼み事は遠慮せず職員に話してほしいと伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を電子化することにより、誰もが分かりやすいサービス内容としている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にニーズの変化に即応できるよう、定期的カンファレンスを行い、ニーズやサービスの在り方について検討している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人福祉センターとの連絡を取り合い、地域に根差した施設運営を行えるよう検討している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医や、訪問歯科、専門医の受診など、多角的な診療が受けられるよう支援を行っている	全員が訪問診療を利用し、往診の対応もある。緊急時は主治医の指示を仰ぎ、救急車の要請時も、主治医が受入先病院の手配を行っている。眼科や入居前からの定期検査は、家族が付き添い通院している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との状態について共有し、必要であれば往診医との連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時加算の算定や情報共有、退院時の病院との連携など情報交換を密に実施し、医療面でのサポートをしている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に確認すると共に、その時の考えや意見を尊重し、入居者、家族が望む在り方の支援を行っている	入居時と重度化時に、医師説明の機会を持ち方針を決める。看取り期は眠りスキャンを活用し、急変に対応出来る体制を整えている。旅立ちの時間を家族と過ごせるように支援し、家族の不安や気持ちの整理などに寄り添い、相談に応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの定期的な研修や実際の行動、連絡体制など都度確認を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練やBCP研修など実践しいざという時の対応について共有を行っている	敷地内の法人施設と合同で訓練を実施し、協力体制を確認している。反省会で、消防到着までの7分間にできる防火扉を活用した避難方法を検討した。事務室にヘルメットと救急持ち出し用品を備え付けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の人格の尊重した声かけ、呼称など行っている	出来る事を見極め、行き過ぎたケアにならないよう注意している。羞恥心に配慮した声掛けや入居者に馴染みのある言葉で分かりやすい説明を心掛けている。居室にトイレがあり、プライバシー確保に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の生活を質を確保し、自己決定の尊重や本人の思いなど汲み取り支援をおこなっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間をどのように活用しながら支援が望ましいか都度検討しながら支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや衣類の交換など自身で行えない場合支援行っている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的に提供されるだけでなく生活の一部として下膳など利用者が行える部分を継続して支援している	配食業者を利用している。手作りの芋煮やパンバイキングを楽しむ機会もある。ホットプレートで作るフレンチトーストは食欲をそそる香りが広がり喜ばれた。食事の進み具合を互いに見守り、穏やかな食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の見直しや必要な水分量など観察している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや定期的な歯科健診など必要時において実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方以外、自身で排泄が行えるよう支援している	半数以上が自立している。座位が保てない方を除き、声掛けや誘導、介助によりトイレでの排泄を支援している。排便コントロールが安定し、失敗が減った方もいる。夜間のみポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の習慣など把握し、著しい便秘にならないよう留意している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の順番や時間など一人一人が安心して入浴できる環境を整えている	浴槽に入れない時は、ミスト浴や足湯で対応する事もある。好みのシャンプーや入浴剤を使用する方もいる。ヒートショック対策など安全に気を配っている。ゆっくり過ごせる時間を大切にし、職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息が取れる環境設定や居場所作りなど利用者一人ひとりに沿った生活ができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の元、適切に服薬できるよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換を図り行事や楽しみ、季節感を味わう事を目的に生活の場の提供を行っている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を仰ぎながら、外出の楽しみが味わえるよう支援を行っている	多賀城のあやめ園や松島のかまぼこ工場見学にドライブで出掛けた。家族と買い物や散歩に出掛ける方もいる。日用品の購入は職員に頼むなど、外に出たがらない方が多い。1階の事務所へ行く時に誘い、歩く機会を作り気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、ご家族の協力の元支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などご家族や本人に聞き取りながら支援している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部などの空間を四季を感じたり談話するスペースで居心地が良い空間となる配慮している	フロアは広く、窓越しに公園が見え、子供の遊ぶ姿や町内会の清掃活動を眺める事が出来る。定期的に換気し、加湿器で乾燥対策を行っている。クリスマスツリーや季節の創作作品を飾っている。テレビを見たり、ソファで横になる等、個々に自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部にソファを設置しりゆったりするスペースの確保など行っている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は統一的なものではなく利用者が安心して生活できる場の提供を行っている	ベッドやクローゼット、洗面台、トイレ、テレビ等の備え付けが充実している。化粧品やマッサージ機、位牌等を持ち込んでいる方もいる。トイレに行きやすいベッドの位置にするなど、個々に過ごしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した建物内部として利用者が気持ちよく過ごせる環境作りを心がけている		